



2017. 11. 22

「学びに向かう力」を育む家庭の関わり

ベネッセ教育総合研究所から公開されたデータが目にとまりました。「幼児期から小学1年生の家庭調査・縦断調査(4～5歳児)」(2014)です。約1,000名の5歳児を育てているお母さんへ質問をしました。なお、このデータは調査名称を記載すれば、引用・転載してもよいとありました。

Q1 日頃、お子さまとの生活の中で、あなたは以下のことについて、どれくらいしていますか。※日頃、親子でやりとり遊びをする頻度を聞いたものです。

・子どもと言葉遊びをしている (しりとり、だじゃれなど)	よくある 46.0%	ときどきある 45.4%	91.4%
・子どもと一緒に数を数えている	よくある 49.5%	ときどきある 41.3%	90.8%
・子どもに本を読み聞かせている	よくある 31.9%	ときどきある 40.0%	71.9%
・一緒に絵を描いたり、粘土や折り紙で遊んでいる	よくある 17.3%	ときどきある 49.9%	67.2%
・子どもと知的玩具(あいうえおボードなど)を使って何か学習するような遊びをしている	よくある 20.4%	ときどきある 41.4%	61.8%
・子どもとブロックや積み木などをしている	よくある 16.2%	ときどきある 41.5%	57.7%

教育的な内容を含む親子での遊びや読み聞かせなどの養育行動を、「やりとり遊び」と総称して分析してあります。ここでは5歳児の親が子どもと一緒に言葉遊びをしたり数を数えたり、お絵かきをしたりするなど、やりとりを伴ういろいろな遊びをしていることがわかりました。

Q2 現在、お子さまは以下のことについて、どれくらいあてはまりますか。

好奇心 新しいことに
好奇心をもてる 頻度 低群 44.2%
頻度 高群 60.4%

協調性 遊びなどで友だちと
協力することができる 頻度 低群 37.5%
頻度 高群 49.5%

自己統制 ルールを
守りながら遊べる 頻度 低群 30.5%
頻度 高群 47.4%

自己主張

自分が何がしたいかを
言える

頻度 低群 26.9%

頻度 高群 36.0%

がんばる力

物事をあきらめずに、
挑戦することができる

頻度 低群 13.7%

頻度 高群 21.5%

頻度 低群 と 頻度 高群 は、Q1で「あまりない」と「ぜんぜんない」とした集まりを頻度 低群 としています。また Q1で「よくある」と「ときどきある」とした集まりを頻度 高群 としています。やりとり遊びをする集まりとそうでない集まりでは、明らかな違いが出ています。この好奇心・協調性・自己統制・自己主張・がんばる力は、学習することの土台となる「学びに向かう力」です。その「学びに向かう力」とやりとり遊びの関連を見たものです。

Q3 日頃、お子さまとの生活の中で、あなたは以下のことについて、どれくらいしていますか。 ※母親の就労の有無と、やりとり遊びの頻度を聞いたものです。

就労中

頻度 低群 56.2%

頻度 高群 43.8%

専業主婦

頻度 低群 54.9%

頻度 高群 45.1%

ここでは、やりとり遊びをする頻度と就労の有無との関連をみたものです。やりとり遊びが高群の割合は、母親が「就労中」の場合で43.8%、「専業主婦」の場合で45.1%と、大きな差はありませんでした。つまりやりとり遊びは就労中だから「できない」、専業主婦だから「できる」ではないのです。必要性を個々でどれだけ感じているかということでしょう。

やりとり遊びは、ここで強調したいのは義務で取り組むのではなく、親子で楽しむことだと思います。子どもから「お母さん、またやろうね」と言ってくれるようになるといいですね。

やりとり遊びの効果は、十分に分かりますが、しかしできる時間がない人は、団欒などで親子の話をしましょう。ここで、話をすると言いましたが「幼稚園でどんなことがあった？」と聞くと「〇〇があった」という返事に対して、次々に質問が繰り返される傾向が強くなります。しかも、指摘されるべき点があると、叱られてしまうという経験は残りますから、だんだん口が重くなるはずですよ。

そこで、親子の会話をクイズ形式で出し合うという方法がおもしろいでしょう。子ども「きょう、ぼくは幼稚園でうれしいことがありました。どんなことでしょうか？
①給食がおいしかった ②友だちがやさしくしてくれた ③先生にほめられた」
母（う～ん②だね。でも、わざと①にしよう。）「①じゃないの？」

お母さんもクイズを出すほうだったり、これもやりとり遊びになるはずですよ。意外に子どもの世界や気持ちがくみ取れるのではないかと思います。クイズにすると冷静に聞けるので、叱らなくて済むのではないのでしょうか。

園外保育(年長さんは創造の森へ)



11/15(水)園外保育がありました。年長組は鴻の峰創造の森まで園から歩いて行きました。園長の私も年長組に同行しました。行きも帰りも歩きだったので、少し不安がありましたが、さすがに年長組の子どもたちです。よくがんばって最初から最後まで歩くことができました。距離にして



往復約6キロメートルの道のりです。子どもたちの自信にもつながったと思いました。

子どもたちは列を作って歩きますが、後半の子たちは先頭集団から離れ、間隔が空きがちです。その都度、走って距離を詰めますが、また間隔が空くのです。長い距離を同じペースで歩けなかった子たちは、距離以上に体力を消耗したはずですが、弱音を吐きながら、それでもがんばってくれました。少しずつ、たくましくなっていることがとてもうれしかったです。



お弁当の時間は暖かい日差しが当たり、楽しい時間になりました。心のこもったお弁当を有り難うございました。今回はしっかりと歩いたので、みんなの食もパクパクと進みました。笑顔あふれるお弁当の時間でした。

なお、今年は紅葉の時期が早く、木戸公園も創造の森も、きれいな葉を見つけにくくなっていました。紅葉は、落葉に変わりつつありました。

しかし、子どもたちはたくましいなと思いました。つばきの木の実が弾けて、種がかなり落ちていました。それを石で叩いて割り、「おもしろい、おもしろい」と連呼していました。この子たちには、縄文人の血が流れているのかな？そんな想像をしてしまいました。また、小川を覗き込み、木の実やカニを見付けて遊んでいました。



自然の中になると、大人が考えるような特徴的なものがなくても、楽しんで活動できるのです。子どもたちもだんだん、その場にあるものから遊び方を見付けていくことができているようになってきました。

お魚さん、ありがとう

11/16(木)食に関する大切なイベントが行われました。愛媛県で育った「養殖ぶり」の解体を年長組の皆さんに見てもらいました。魚をさばくのは、松西鮮魚店さんをお願いしました。ピチピチしていた「ぶり」は、包丁でバラバラになっていきました。子どもたちは、魚の様子を息をのんで見ていました。私たちの食べ物となっている「魚」には、私たちと同じ内臓や血があり、同じ命があることを知ってほしかったのです。

よく考えると、私たちの食べ物は、生き物の命をいただいているのです。今回、魚を目の前でさばいたのでインパクトがありましたが、私たちの知らないところでは、日常的に行われていることなのです。そうすると「嫌いだから食べない」や「においがいや」などの理由で食べ物を粗末にしているのか？ということになります。子どもたちも改めて「いただきます」と「ごちそうさま」の意味を考えてくれたと思います。私たちが生きていくためには、いろいろな生き物の命をいただいていることを実感し、感謝の気持ちが育ってくれることを期待したいと思いました。

この日ボランティア部の皆さんのご協力もあり、三枚に下ろされた切り身をホットプレートで焼いてもらい、年長児はいただきました。うすい塩味で、おいしかったです。

なお、年少、年中のみなさんも給食で出された「ぶりの照り焼き」について、お魚のぬいぐるみで事前に学ぶことができました。ぬいぐるみでも真剣な態度で聞くことができ、十分に効果はありました。

